

【日本の大学】第 61 回——関西外国語大学：国際交流進める語学系私大

関西外国語大学は、大阪に本部があり、大学、大学院、短期大学などを擁し、学生数約 1 万 2 千名が学ぶ語学系の私立大学である。1960 年代から国際交流に取り組み、現在では欧米を中心に 55 か国・地域の 395 大学と単位交換協定を締結している。多彩な留学プログラムを通して、年間約 1900 名の留学生を海外に派遣するとともに、海外の 30 か国・地域から約 750 名の留学生を受け入れている。

以下、関西外国語大学のホームページなどから大学の発展の歴史と現状を概観してみよう。

大学の歴史は第二次大戦終了直後にさかのぼる。終戦の年の 1945 年 11 月に、創設者である谷本昇・多加子夫妻が大阪市東住吉区に、私財で「谷本英学院」を創立したのが始まりである。敗戦に打ちひしがれた廃墟の中から、二度とあのような戦争を繰り返してはならないとの強い決意を、外国語教育に託して、第一歩を踏み出したという。

1947 年 4 月には関西外国語学校となり、53 年には短期大学を大阪市住吉区萬代に開設、米英語科を置いた。60 年には短期大学に夜間の第 2 部を設置している。



谷本記念講堂（4号館）

英米語とスペイン語学科でスタート

関西外国語大学が開設されたのは1966年4月のことである。校舎は枚方市北片鉾町に置き、外国語学部には英米語学科とスペイン語学科を置いた。同時に短期大学（第1部）も置いて、枚方と万代両学舎となり、大学本部は枚方に移転した。

建学の精神は「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」であり、「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応じていく実学」を理念として掲げてきた。

早い段階から国際交流に道を開き、まず、1968年には米国アーカンソー大学の教授・学生19名を招いた。71年には単位交換に基づく米国大学との交換留学生制度を発足させている。その後もアジア研究プログラムを開講して、米国の大学の教授や留学生を受け入れたり、関西外大ハワイ校を開設したりするなど、国際交流を広げていった。

大学院も設置し、1973年には外国語学研究科英語学専攻（修士課程）を、76年には同研究科に言語文化専攻（修士課程）を増設、79年には国公立私立を通じて外国語大学として最初の博士課程後期を設置した。



中宮キャンパス本館

3 学部、大学院、短大の体制

学部も、外国語学部 1 学部から、1996 年に国際言語学部の国際言語コミュニケーション学科を開設、さらに 2011 年 4 月からは、英語キャリア学部の英語キャリア学科を開設した。これにより、大学院、大学 3 学部、短期大学部からなる現行の体制が整った。2013 年には英語キャリア学部に英語が使える小学校教員を養成するコースを開設し、翌 14 年には国際言語学部を英語国際学部へ改組改称している。

建学理念に関しては、2009 年に将来構想検討委員会の検討と答申を受けて中・長期ビジョンである「関西外大ルネサンス 2009」を策定し、その中で、「外大ビジョン・6つの柱」として理念の実現を目指している。

6つの柱とは(1)国際通用力を保証する言語教育の実践拠点であること(2)高度な専門職業人育成へアプローチすること(3)国際人にふさわしい人間力の涵養と全人教育を推進すること(4)「キャンパスは“ちきゅう”」～学びのフィールドを広げ、深めること(5)地域はパートナー～「グローカリズム」を実践すること(6)大学力の強化と充実を図ること～力強い未来のために——である。



VILLA（低層教室エリア）御殿山キャンパス・グローバルタウン

大学開設時からある外国語学部は、英米語学科とスペイン語学科の 2 学科である。英米語学科は、高度で実践的な英語運用能力の向上を図るとともに、英語圏をはじめとする諸外国・地域の歴史や文化に関する幅広い理解、国際感覚、並びに豊かな専門知識を育むことによって、国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

スペイン語学科は高度で実践的なスペイン語運用能力の向上を図るとともに、スペインやラテンアメリカを基軸とした諸外国の事情に関する幅広い理解、国際感覚、ならびに豊かな専門知識を育むことによって、国際社会で活躍できる人材の育成を図る。スペイン語の話者数は世界で約 5 億人に上り、英語とともにビジネス界でも広く使われている。ネイティブ教員による特別授業などを通して一から鍛え上げ実践的な運用能力を養う。スペイン語、英語の 2 言語を駆使して活躍するトライリンガル、マルチリンガルを目指す。

外国語学部では、2023 年 4 月に英語・デジタルコミュニケーション学科を開設する予定である。グローバル化とデジタル化が社会のあらゆる場面で加速している。高度な英語力に加えて実社会で求められるデジタルスキルを身につけて言語や文化、価値観の異なる人たちとコミュニケーションを取りながら多様な社会課題を解決できる人材を育成するのが狙いである。

2023年4月にはさらに、国際共生学部が開設される予定である。計画によると、海外からの編入学生30人を含む、100人の定員を想定、世界中の学生と多様な文化や価値観を共有しながら、共に学び、行動し、「実践力」を磨いていくことを目指す。

2011年に発足した英語キャリア学部の英語キャリア学科は「活躍のフィールドは全世界。次世代のグローバル・リーダーを育成する学科」と位置付けている。高度なコミュニケーションを可能にする本格的な英語力と、社会科学の学修を通じて得る知識・論理的思考力・公正な視点および国際理解力と多文化共生力を基盤とし、併せて幅広い教養や豊かな人格形成などからなる英語キャリア基礎力を養成する。多文化共生社会においてリーダーシップを発揮する高度国際職業人につながる人材の育成を目的にしている。原則として学科生全員が対象の1年間の「専門留学」があり、海外の協定大学で現地学生とともに専門分野を学ぶ。

2013年に設けられた英語キャリア学科小学校教員コースは、教育に対する強い情熱・使命感を持ち、小学校教育に関する全分野にわたる優れた実践的な指導能力を身につけ、コミュニケーションを可能とする英語力と、国際理解力と多文化共生力を有した人材の育成を狙いとしている。



TANIMOTO HALL (谷本ホール)

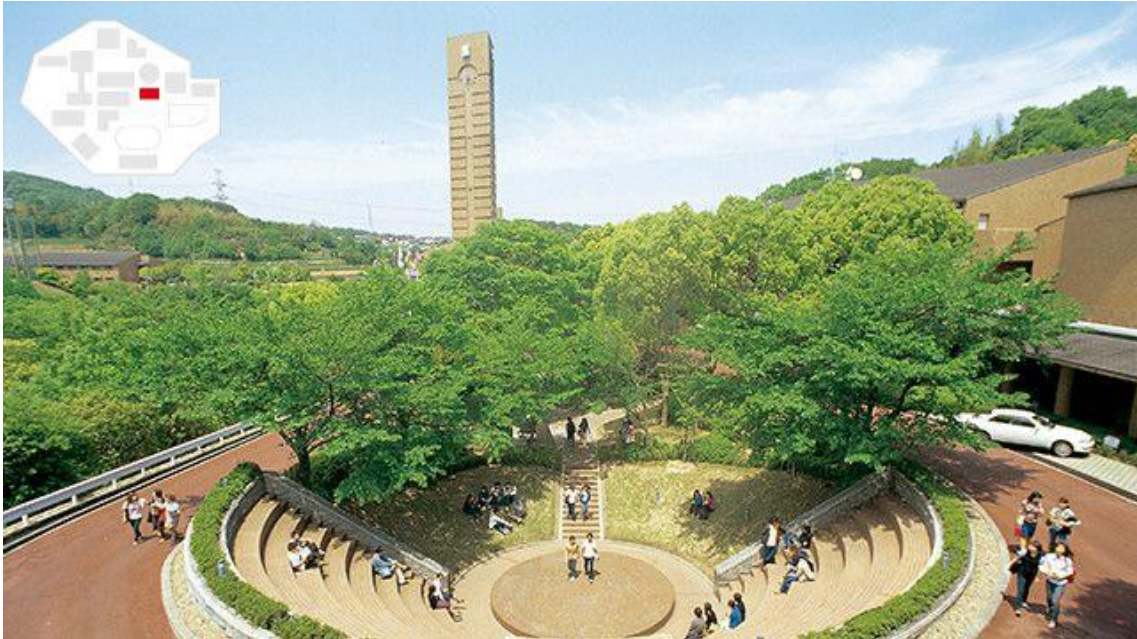
英語・中国語のバイリンガル目指す

国際言語学部から 2014 年に名称変更した英語国際学部（英語国際学科）は、次世代に生かせる言語として英語と中国語を修得することを目指す。全世界の共通語となっている「英語」と話者数が世界で一番多い「中国語」という 2 言語を駆使できるようになることが「未来創造型グローバル人材」を目指すうえで力強い一歩となる。語学集中プログラムと 2 言語の留学プログラムを組み合わせながら教育を進めている。2 言語をベースにしながら、世界が直面している課題や時事問題について考え、自分の意見を発信する力を養う。

環境問題や貧困問題など、世界が抱える多くの課題は多様化・複雑化していて、一つの専門分野の視点だけでは解決することは困難であろう。英語国際学部では、新カリキュラムとして「グローバルリベラルアーツ」を設けて、そうした課題を見極め、解決に導くための「クロスオーバーマインド（分野横断的な思考力）」の養成を図る。

大学は現在、55 か国・地域の 395 大学と提携（2021 年 10 月現在）、留学派遣学生総数は例年約 1900 名、留学生の受け入れ数は約 750 名に上る（2019 年実績）。キャンパス内では、留学生と友好を深めるためのさまざまなプログラムを企画・実施しており、留学生との交流は大学生活のごく自然な一部となっている。

各学部はそれぞれ、長期、中短期の留学プログラムを備えている。英語国際学部を例にとると、1 学期間ずつの英語と中国留学が用意されている。留学選考試験に合格を条件に 1 年間と 2 年間の留学プログラムもある。



時計塔と円形ステージ（学研都市キャンパス）

外国人留学生との交流プログラムとしては、外大生と外国人留学生が“パートナー”として互いの語学学習をサポートし合い、趣味や興味の共有、文化交流を通じて理解力を深める「スピーキングパートナープログラム」がある。紹介されたパートナーとは各自連絡を取り合い、お互いのスケジュールを調整して週1回を目安に活動する。

このほか、学生が主体となって企画・運営するイベントを通じて文化交流の機会を増やすことを目指す「エクスペリエンスジャパン」プログラム。日本の家庭の温もりを伝えるためのボランティアプログラムである「ホームビジット・プログラム」。留学生を週末や休日に日本の家庭に招待することで、家族や地域の人々との交流の輪を広げ、理解を深めていくのが狙い。



国際交流セミナーハウス（片鉾キャンパス）

キャンパスは大阪と京都のほぼ中間にある大阪府枚方市にある 3 カ所。本部のあるのが「中宮キャンパス」。ほかに「御殿山キャンパス」と「学研都市キャンパス」である。

大学の理事長・総長は谷本榮子氏、学長は大庭幸男氏である。大庭氏は、九州大学大学院文学研究科修士課程修了「文学修士」。大阪大学で文学博士となり、大阪大学大学院文学研究科教授、同名誉教授。関西外国語大学は 2013 年に外国語学部教授、2020 年から学長。

日文：滝川 進
写真：関西外国語大学 HP